

# 日本景気拡大の歴史

2017年10月7日  
朝日新聞 他

2012年12月に始まった現在の景気拡大は期間では4年9か月の「いざなぎ景気」に並んだとはいえ人々に好況の実感はない。

急速な高齢化が進み生産年齢人口の変化(いざなぎ景気の頃は500万人弱増える。片や、今回は400万人ほど減る見通し)で個人消費に勢いが無い。更に今回は賃金の伸びが鈍い。

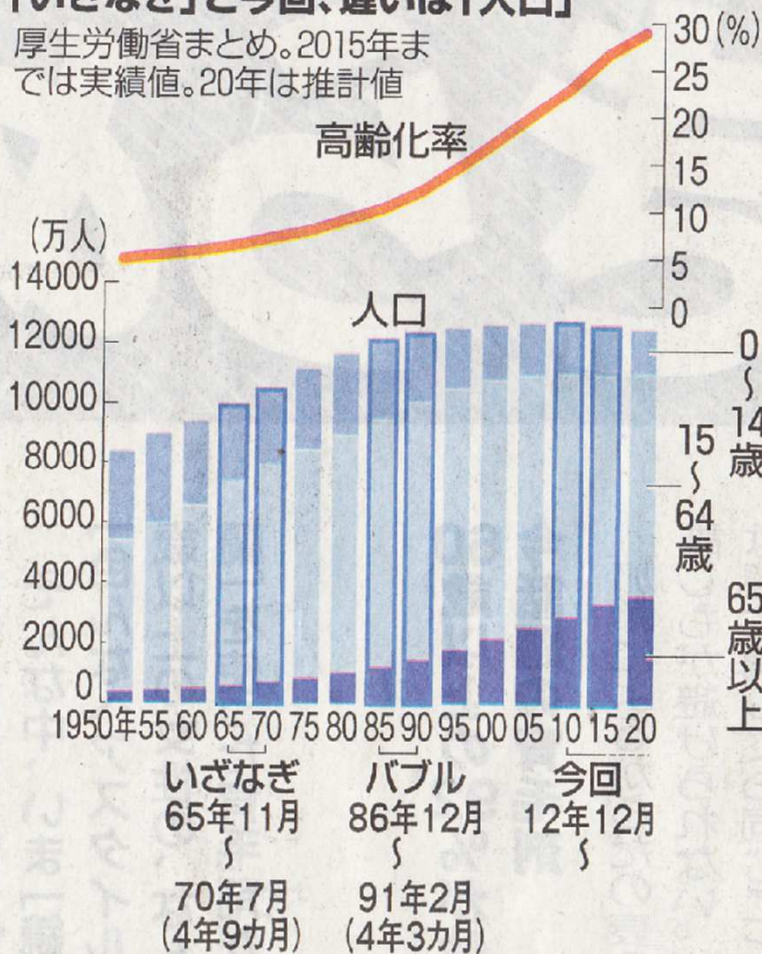
生産年齢人口の減少は高齢者の増大を生む。高齢者は自分の食べ物以外に多くの消費をせず、個人消費は停滞する。

企業は国内市場の縮小を見込み、設備投資に慎重。成長の見込める海外企業を将来、買収するための資金の確保を考え簡単に賃金を上げない。

企業利益が内部留保や配当金、役員賞与にまわり、従業員に届かぬ時代になってきた。従業員の昇給が鈍いため、個人消費が上がらず、国民は好況感を感じていない。

## 「いざなぎ」と今回、違いは「人口」

厚生労働省まとめ。2015年までは実績値。20年は推計値



## 過去の景気拡大局面との比較

GDP (実質)	個人消費 (実質)	1人当たり賃金 (実質)	消費者物価	企業収益 (名目)
①戦後最長(2002年2月~08年2月)				
1.7	1.1	▼0.5	▼0.0	9.1
②今回(12年12月~)				
1.4	0.6	▼0.8	1.0	12.5
③いざなぎ(1965年11月~70年7月)				
11.5	9.6	—	5.0	—
④バブル(86年12月~91年2月)				
5.4	4.6	1.5	2.0	11.6

ニッセイ基礎研究所のまとめによる。年平均の伸び率%で▼はマイナス。—は比較できるデータがない